

令和 7 年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

蒲刈中学校区 校番 31 学校名 呉市立蒲刈小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルタブレット・キュービナがどのようなもので、どのような効果があるかわからないが、苦手なことではつまずくと、そこから苦手意識が芽生え伸び悩むようになる。児童一人一人に寄り添い、救いの手を指し述べるように心がけていただきたい。 ・地域とともに輝く学校を目標としていることに評価する。地域の資源(人材、環境、家庭等)利用できるものを掘り起こす努力が認められる。 ・評価するのにどうして数値での客観的評価が必要なのでしょうか。違う観点もあっていいのかと思ったりしますが... ・目標である知識及び技能の確実な定着の指標を全国学力状況調査のみでみるのはどうか。一人一人の能力は違う。一人一人の向上した結果でみることはできないか。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的でよいと思います。 ・学習リーダーを中心とした「見守り型支援」の授業づくりの努力が認められる。 ・「学校は間違えるところ」を合言葉に学級経営を行っていることは素晴らしいことだと思います。人にはそれぞれの考えがあり、多数意見が正しいとは限りません。少数意見の中にも正解はあります。算数などにおいても間違いの積み重ねで正解に近づきます。児童の寄り添い、「間違いは恥ずかしいこと」ではありません。何事にもあきらめない心の醸成に努めていただきたい。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現できる力は、自分に自信がないと難しい。いろんな経験を積ませて自分に自信が持てるような児童に育て、失敗は恥ずかしいことではないことを教えて、失敗を糧に自己表現力を高めてほしい。・家庭での予習・復習が定着しつつある。 ・学力もまずまずであり今後も頑張ってもらいたい。 ・可能であれば消防署に見学に行き、地震体験等、実際の防災について触れていくことが大事ではないかと思う。小学校に来てやってもらってもよいと思う。 ・自己肯定感において、自分が役に立っていると感じる事や良い所を伸ばす事が大事だと思う。小学校・中学校は近くなので、例えば中学生が小学生と勉強を一緒にするのも面白いのではないかと思う。例:小1・2年を中学3年生が教えるなど。
今後の改善策(案)の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した防災意識づくりを行うことにしている点。(が適切である) ・働き方改革の推進については学校としても難しいことであるが、教育委員会とも相談し、事務量の軽減など先生が抱える全体の時間を調整し、少しでも児童と向き合える時間を増やしてほしい。無理して達成することはないと思います。 ・防災について、小学校、中学校だけではなく、地域を巻き込んだ取り組みが必要だと感じる。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・すべてに良い評価になっているとこのことで頭が下がります。今後とも、よろしく願い申し上げます。 ・意見として常に学校に常駐していないので、詳細なことが十分理解できないため、評価するのに責任を感じます。 ・保護者負担である「キュービナ」の活用頻度を増やすことに賛成します。「褒める」ことでやる気スイッチが入る児童に対しては、どんどん「褒める」べき。逆に、苦手分野ある児童には特異な児童と一緒に学習させることで相乗効果も生まれるのではないかと感じます。教職員は、「オン」と「オフ」を上手に使い分けて、頭と体の休日をしっかりと確保する。 ・すべてA評価のようですが、達成できていない課題を目標に挙げていくことも必要なのかと思ったりしました...。小中一貫(教育)なので難しいのかもしれませんが...。プレゼンの時間は短くなり、意見交流の時間が充実してよかったと思います。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ■学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、自分の意見をもち、自分の言葉で表現できる児童生徒の育成のために 個別最適な学びを展開して、学びの方法の見直し、キュービナの活用頻度を増やす等する。主体的な学びへのファシリテーション力を向上させたり、振り返りの視点を意識した授業づくりに取り組んだりする。 ■困難な状況にも臆することなく挑もうとする児童生徒の育成 ・防災についての共通認識をもてるような安全教育や小中合同避難訓練を継続するとともに、家庭と連携した防災意識の向上を図る。教師からの適切な褒めと叱りについての校内研修を行い、質をより一層高めていく。また、挑戦することの価値を教職員間で共有し、挑戦の経験を積み重ねさせる。 ■安心と安全な教育環境づくり ・時間と空間を有効に活用するために、新たな業務の精査の促進を図る。教職員の同僚性や専門性を高めるために、情報共有や連携・協働する教職員集団の構築を図る。児童理解について、多様な視点からの研究等を通して、「見通し・取組・振り返り(A・A・R)」サイクルを積み重ねる、省察的实践に心がける。
--------------------	--